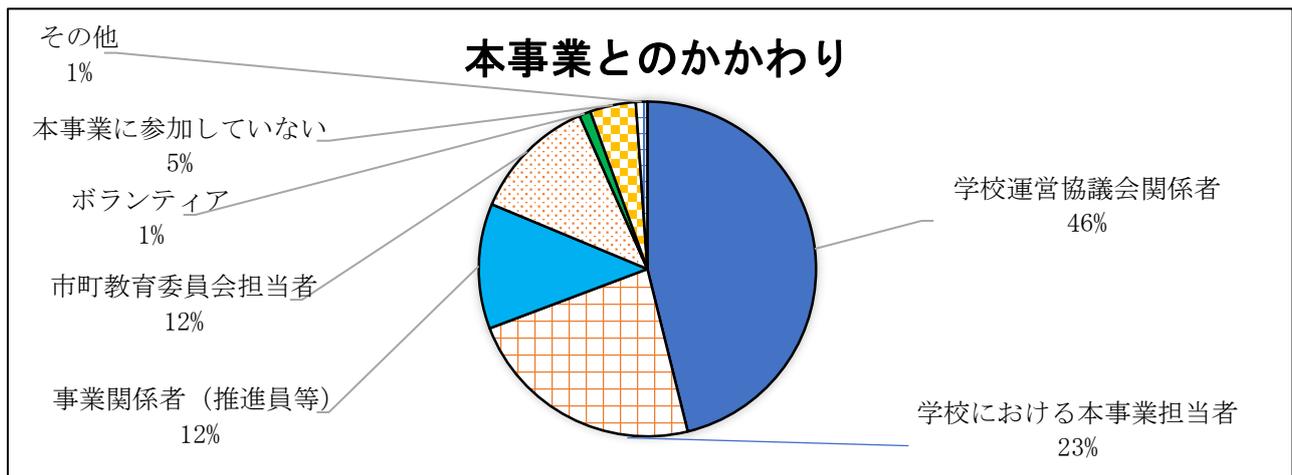
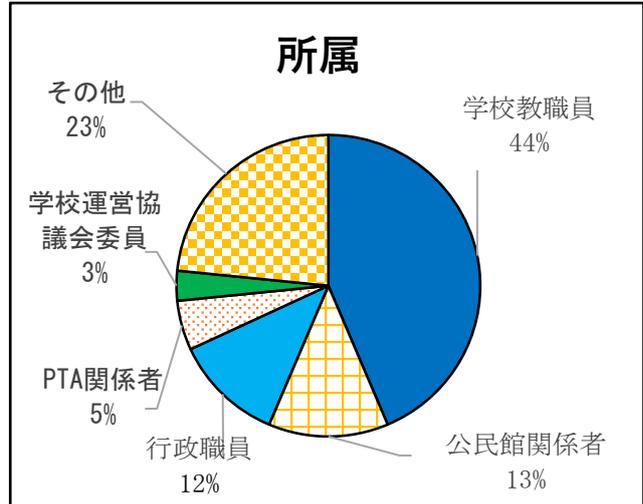
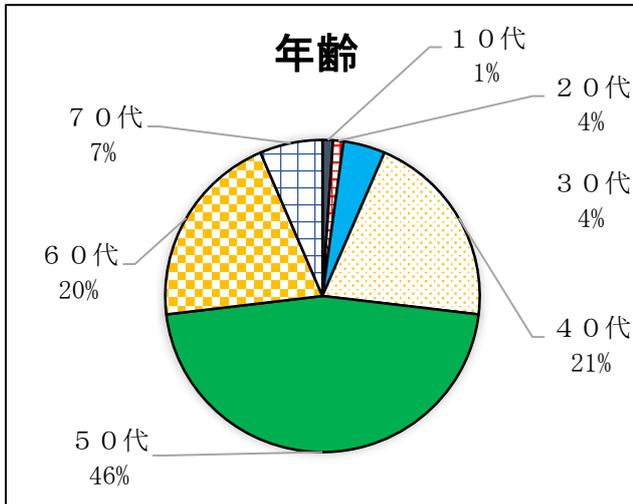
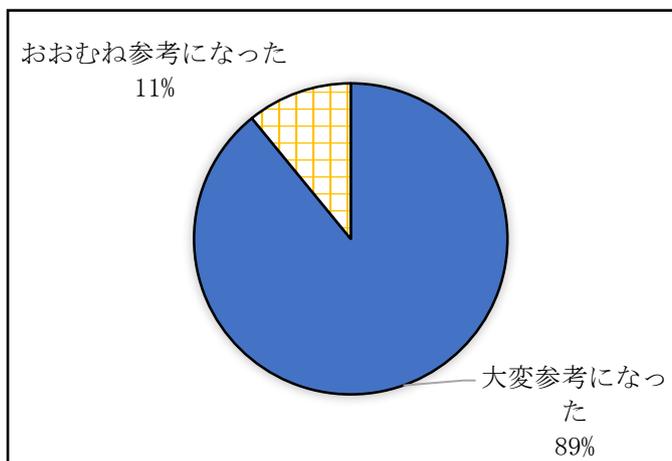


# 令和5年度地域ぐるみで育むえひめっ子未来創造事業 「地域学校協働活動」と「コミュニティ・スクール」の一体的な取 組推進研修会 アンケートまとめ

- 参加者 134名
- アンケート回答者 93名



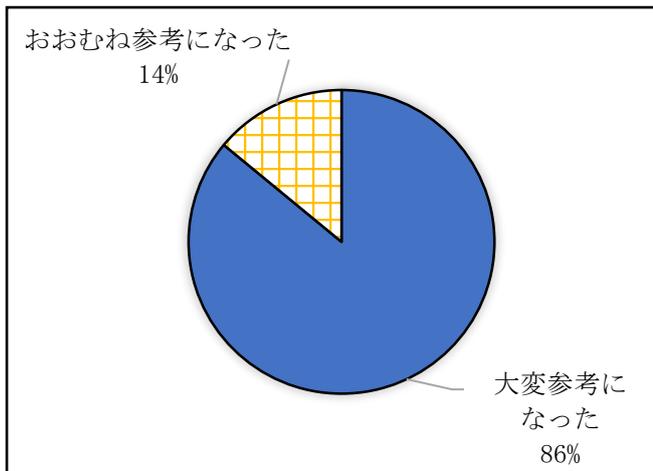
## 県外事例発表（広島県府中市立国府小学校）について



## 【主な意見】

- 地域の人たちと深くつながり、教育効果をあげている点がすばらしい。
- 子どもが参加している「コミュニティ・スクール」がすごく参考になった。地域の住民の一人だという自覚が芽生えると思った。
- こどもCS委員会の仕組みを広めていきたい。活動の中心は子どもたちなので、子どもたちの意見を取り入れることは重要であると感じた。
- 学校運営協議会に子どもたちの意見が反映される仕組みとして、こどもCS委員会はとても勉強になった。地域にコーディネートできる環境が整っているのも大事で、地域づくりも含めてできることを行いたいと思う。
- 今の児童は身の回りに楽しいこと、おもしろいことが多くあり、積極的に取り組む状況づくりが難しい。そのような中、児童が自ら考え参画し、プレゼント等までしている取組がすばらしい。
- 先進的な取組で、大変参考になった。教育課程にきちんと組み込まれていて、本校でもこれから進めていかなければならない。担当の先生が、意欲的に熱意をもって関わっておられたのが印象的だった。子どもたちが参画していたのがすばらしい。
- 教諭の担当者が位置付けされているというのが参考になった。
- 地域の方（会長）の熱意や担当の先生の熱意が大変感じられた。
- 地域との連携を進めるためにはカリキュラム・マネジメントが大切である。取り組み方等、大変参考になった。
- 学校運営協議会における4つの部会活動は、学校にも地域にも分かりやすい取組で参考となった。繋げる役割が公民館とCS担当教員というのも新鮮だった。地域コーディネーターとして、学校内に相談できる教員がいるというのはとても心強いし、効率的だと思う。
- どの部会も子どもも家庭、地域の大人もワクワクするような内容であった。また、部会の内容が明確で取り組みやすいと感じた。
- 地域として、児童に何かをやってあげるというのではなく、一緒に作り上げていく体制がすばらしいと思った。
- 地域との協働活動がすばらしい。カリキュラム・マネジメント、国府演 JOY 祭等、持続可能なまちづくりにつながっている。
- 継続できることを根底に、『楽しむ』という感覚が大事だと思った。地域も学校も生き残るため、できることから無理せずに歩いていく姿勢も参考になった。
- キャッチフレーズの「知り合う・分かり合う・つながり合う」本当にこの言葉に尽きると思う。
- 公民館との連携がやはり不可欠と感じた。また、町内会長を会議の委員に参加してもらっているのが参考になった。
- 学校運営協議会に子どもたちの意見が反映される仕組みとして、CS委員会はとても勉強になった。地域にコーディネートできる環境が整っているのも大事で、地域づくりも含めてできることを行いたいと思う。

## 県内事例発表（宇和島市立津島中学校）について



### 【主な意見】

- 推進員として、学校と地域の連携を円滑に進める役割を担っている方がおられることに希望をもらえた。
- 地域の推進員ならではの学校と地域を結びつける力を感じた。学校運営協議会からの課題や発案を具現化する、学校と地域の対応力が素晴らしい。
- 公民館と連携したり、生徒の声を聞いたりすることの大切さを感じた。自分も中学校のコーディネーターをしているので、ぜひ参考にしたいと思った。生徒主体ということはとても大切だと思う。
- 中学生の積極的な意見や推進委員の技能をうまく取り入れる等、生徒たちがよりモチベーションを高める活動となっている。
- 学校運営協議会と児童生徒を守り育てる会を兼ねるなど、学校負担軽減の視点は大切だと思った。
- 市をあげてコミュニティ・スクールに取り組み、専門の学識経験者も配置しており、地域コーディネーターにとってもよい環境づくりができています。
- 子どもたちが熟議に参加して、自分の言葉で発信し、地域と関わっていることがとても素晴らしい。
- 生徒自身が参加、参画している点が素晴らしい。ESDだと思った。
- 生徒が主体的に参画しているのが大変印象的だった。子どもたちの育ってほしい姿、目標をしっかりと設定しておくことの重要性を改めて感じた。
- 熟議がとても興味深かった。小中の発達段階の違いはあるが、自らが考え行動していくことは得るものが多いと感じた。
- 中学生という、思春期の難しい年代の子どもたちに、地域貢献という役割を持たせることで、自己有用感が高まり、それがふるさとを愛する原動力になっている。地域活性化にもつながる、効果の高い取組だと思った。
- 子ども熟議に参加！！自己肯定感と自己有用感を大切にしていることは素晴らしい。
- 地域の活動に中学生の生徒たちが熟議を重ねることは、文化継承の担い手育成にもなり、郷土愛を育む活動として、これからの地域づくりへとつながるよい取組だと思う。
- 熟議の重要性を強く感じた。「自分たちのふるさとに帰ってくる生徒を育てる、その場

所を確保することが大人、地域の役割」という言葉が印象に残った。

- 管理職が代わっても学校運営協議会が機能すれば、チーム学校は継承されることが実感できた。
- 地域の方と生徒が話し合う機会をしっかりとつようにしていることや地域学校協働活動推進員の役割が組織の中でしっかりと理解されていることがすばらしい。地域だよりを発刊しているのもよいと思った。
- 少子高齢化が進んでいる地域での実践は、所属校の課題とつながり、大変参考になった。小中の連携を視野に、今後も子どもたちの未来のために取り組んでいきたい。

## 府中市立国府小学校と宇和島市立津島中学校へ質問と回答

Q 教職員のコミュニティ・スクールに対する意識改革をどのように行ったか。

A まずは視察研修や理論研修を通して「知る」ことから始めた。

また、コミュニティ・スクールの仕組みを活用した活動を通して児童が成長する場に直面したり、地域の方の思いに触れたり、学校現場の業務改善に繋がったりと、多くの「よさ」に気付くことで意識改革が生じると考えられる。

府中市では、「コミュニティ・スクールがあるのが当たり前」という意識を持った教職員が多い。  
(国府小学校からの回答)

A コミュニティ・スクールに関する情報については、資料などを全教職員に配布して、何をしているかを周知するようにしている。

また、全職員ではないが、コミュニティ・スクールの熟議には若手の先生を中心に参加してもらうようにしており、そこで話し合うことによりコミュニティ・スクールに対する意識が高まっているように感じる。

コミュニティ・スクールに関する研修の時間も年に1回は設けており、今年も宇和島市の教育推進委員に来校していただき、職員に対する研修を行っていただいた。なお、推進員の派遣は宇和島市全体の取組の一つである。  
(津島中学校からの回答)

Q 地域の若い世代や保護者世代等に対する活動の参加の呼び掛けはどのように行っているのか。

A 国府小学校では、P T Aの中にコミュニティ・スクールに関わる役(委員)を設置したことで、連携がうまくできている。

また、その他の世代への呼び掛けは、やはり町内会の理解が大きい。なお、町内会からもCS委員を出していただいている。

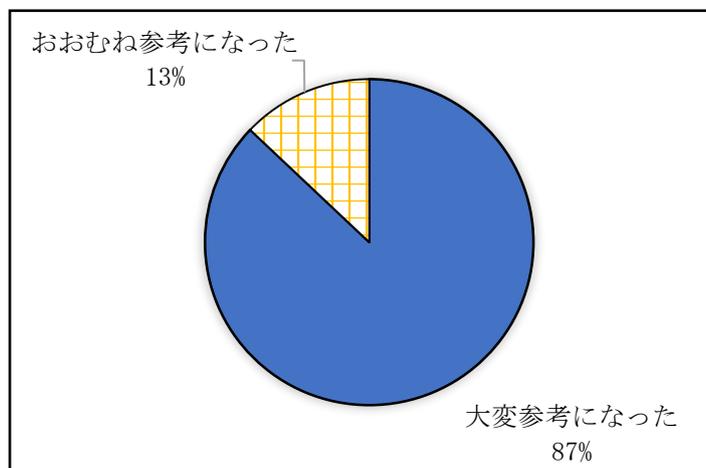
役員選出についてご理解いただくためには、とにかくコミュニティ・スクールについての周知を行うことが重要だと思い、学校だよりやP T Aライン、こどもCSだより、学校HPで精力的に活動の報告などをお知らせしている。(国府小学校からの回答)

Q コミュニティ・スクールの仕組みや地域学校協働活動が、教職員の負担軽減に効果があった事例があれば教えていただきたい。

A 以前行っていた児童生徒を守り育てる協議会や学校評価委員会は、コミュニティ・スクールに統合するという形にした。また、総合的な学習の時間に行う地域学習や職場体

験学習での外部との連絡や日程調整等は、地域学校協働推進員さんに行っていたことで、その部分での負担軽減になっていると思う。今後、学校施設の整備（除草作業、剪定など）も地域の方をお願いできないか検討中である。（津島中学校からの回答）

## グループワークについて



### 【主な意見】

- 他市の推進員やコーディネーター、教職員の方と話ができ、それぞれの立場の問題点  
がわかり、今後の活動の推進の仕方が見えてきた。
- 地域の方（市P連、企業の方）の話が参考になった。いろいろな立場の方と意見交換  
できた。
- 立場は異なるが、学校、地域をよくしようという気持ちがとても伝わった。
- 様々な立場から、地域の未来、地域の子どもの育ちを考えることはとても有意義であ  
る。参加してみてたくさん気づきをいただいたので、職務に活かしていきたい。
- いろいろな意見を聞くことができ、大変参考になった。コミュニティ・スクールにつ  
いて、自分自身も含めて理解を広げていきたい。コーディネーターとの連携、地域の人  
材を知り、つなげていきたい。
- コーディネーターの立場からの悩みも出していただき、実際の現場でどう連携を図る  
のか、参考になった。
- どの地域でも後継者不足が深刻であった。それぞれの地域で行っている祭り、防災、  
キャリアに関する取組を知り得ることができたので、今後の教育活動に活かしたい。
- 市外の地域コーディネーターの方と情報を共有できたことが一番の成果である。地域  
コーディネーターが教職員に「自分ができること」について情報発信をしていること、  
学校の職員室に席があると、教職員とコミュニケーションが取りやすいことなど参考に  
なった。
- 学校側が「いつでも気軽に学校に来てくださいね」と言ってくれるが、やはりなかな  
か学校の敷居は高いという地域側の参加者の話があった。地域の方が気軽に学校に来る  
ことができる機会をつくっていくことで、少しでも敷居を低くする努力をしていかなけ  
ればならないと感じた。
- 参加者と具体的な悩みを共有することができた。また、今後も相談し合えるつながり  
ができた。

- コミュニティ・スクールに移行している学校、地域の方が多く、取組や課題等たくさん知ることができ、有意義だった。
- 子どもが帰ってくる地域づくりのために、地域にしてもらうだけでなく、地域のために学校ができることに重点をおきたい。

## 全体の感想、本事業についての意見、要望等

- 公民館との連携を強めたい。 (地域コーディネーター)
- 各学校・地域にお任せではなく、チーム愛媛として、実践事例や研修等で繋がり、みんなで盛り上げる必要がある。 (地域コーディネーター)
- これまでの研修会の参加者は社会教育担当が主だったが、今回は学校教育担当及び教員、校長の参加も多く、まさしく地域学校協働活動の目的に沿うものだった。校長先生が地域コーディネーターの存在や役割、活動内容を知っているだけでも、地域学校協働活動はかなり変わると思う。ぜひ先生方の負担を減らすためにも、先生や学校が地域コーディネーターをうまく活用してほしい。 (地域コーディネーター)
- 授業への地域住民の参加の事例を紹介し合いたい。 (地域コーディネーター)
- 成功事例だけではなく、失敗事例や課題なども聞きたい。また、限られた予算の中で、他市町がどのように活動を広げられているのかなど、情報交換したい。  
(市町教育委員会職員)
- 地域力を教育課程へ生かすためには、学校運営協議会と地域学校協働活動を先生方とともに理解することが重要である。国府小と遠藤先生の話聞いて、校長や教頭以外でもう1人、教員の中から推進員(地域学校協働活動)や学校運営協議会担当がいたらよいなど感じた。 (地域学校協働活動推進員)
- 遠藤先生の助言が子ども・学校・地域のつながりの大切さを考える上で大変参考になった。 (地域学校協働活動推進員)
- 地域が大きな家族。行動の大切さ。前に進む活動をしたい。(学校運営協議会委員)
- 地域学校協働活動、コミュニティ・スクールという、どうしても学校が主体という感覚になってしまうが、「地域」の関わり度を強くしていくことが重要だと思った。  
(学校運営協議会委員)
- 教職員や地域の方に取組に関する啓発活動を今以上にしていく必要がある。 (学校教職員)
- 活動や取組に関する事例や困ったことに対する参考になる情報を何かプラットフォームのような所に集めて情報共有できればよいと思う。  
(PTA関係者)

